

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
治燥剂 軽宣潤燥剂 4		
せいそうきゅうはいとう 清燥救肺湯	清燥救肺	桑葉 9g・石膏 7.5g・人参 2g・甘草 3g・胡麻仁 3g・阿膠 2.5g・麦門冬 6g・杏仁 2g・枇杷葉 2g 水煎し服用する。
医門法律	<p><主治> 温燥傷肺 発熱、頭痛、乾咳、無痰あるいは少量の粘稠痰、甚だしいと痰に血が混じる、呼吸促迫、呼吸困難、息切れ、鼻や咽の乾燥、焦燥感、倦怠無力感、口渇、舌質が紅で乾燥、少苔、脈が数などを呈す。</p> <p><病機> 燥熱熾盛で肺の気陰を損傷した状態である。 燥熱が肺に壅滞して裏熱熾盛になるために発熱し、熱邪が清空を上擾するので頭痛を伴う。燥熱壅肺で上逆して呼吸促迫、呼吸困難が生じ、肺津が燥熱で灼傷されるために乾咳、少量の粘痰あるいは無痰を呈し、肺絡が灼傷されると痰に血が混じる。肺津が不足して上潤できないので口渇、舌の乾燥、鼻や咽の乾燥がみられ、熱が心神を擾乱すると焦燥感が現われる。津液と共に気も耗散するため、息切れ、倦怠無力感を伴う。舌質が紅、脈が数は熱盛を、舌質が乾燥、少苔は津燥を示す。</p> <p><方意> 清燥潤肺により燥熱を除き、気陰両傷を救うべきである。 辛香の薬物は耗気し、苦寒瀉火薬は傷津する恐があるので禁忌である。 軽宣肺燥の桑葉と清肺の石膏が主薬で、燥熱を宣透すると共に内清する。滋陰生津、潤燥の麦門冬・阿膠・胡麻仁は肺の陰津を補充し、苦泄、降肺気の杏仁・枇杷葉は喘咳を鎮める。人参・甘草は益気和中して肺気を扶助する。全体で燥熱の邪を除き、気陰を回復する効能が得られる。</p> <p><参考> 加減法 痰が多ければ、貝母・栝楼を加える。 血虚があれば、生地黄を加える。 熱が甚だしければ、犀角・羚羊角あるいは牛黄を加える。 本方（清燥救肺湯）と桑杏湯は、いずれも温燥傷肺に適用するが、桑杏湯は燥熱の軽症で発熱、咳嗽が強い場合に用い、本方（清燥救肺湯）は経過がやや長く重症で高熱、喘咳、口渇などを呈するときに用いる。</p>	